

仕事の傍ら、コツコツ集めた 中国骨董品コレクションに囲まれて

森 義治さん（67歳）



「もともとは父の趣味でした。約30年前、亡くなった父から受け継いだあと、コレクションの魅力にとりつかれ、次第に増えていきました。本業は？と尋ねられることもあるんですけど」と笑う森義治さんの趣味は、中国の骨董品収集。

面白い出物があると聞けば、すぐさま中国に出かけ、収集に没頭。「古来、中国の権力者が所有していた玉器が主体です。一時は会社の部屋におさまりきれないほどの数になりました：（笑）。今は、気に入ったもの、価値のあるものだけを残し、少しずつ整理しています」。

もうひとつの趣味は菜園づくり。屋上に5センチの盛り土をし、20種類ほどの果実を栽培しています。イチジク、ザクロ、ミカン、モモ、カキ…。今年はブドウの出来がよく、残ったもので16リットルのワインをつくったといいます。そのほか、ほうれん草やねぎ、水菜など、季節の野菜もほとんど買わずに済んでしまうほど。「植物を育てるのは難しく、特に夏の水遣りは大変ですが、手入れをすればちゃんと育つ。子育てのようなものです」と森さん。

本業は、住居設備、建築設備の会社経営。しかもご自身が「水」についての研究者でもあるため、植物栽培はお手の物。現在も、大学と共同で研究開発している自社製品の成果を実証するなど、結果的に趣味と仕事がリンクしたかっこうになっています。

趣味の骨董品集めで親交の深い中国も、今や「水問題」が必至。仕事も趣味も充実の日々。生涯現役を目指しています。